

Ecola

イ・コ・ラ

No.10

発行 2009年5月31日

こんにちは～♪ 半年ぶりのイコラですが、皆さま、いかがお過ごしでしたか？

新学期が始まり、ゴールデンウィークが終わり、やっと落ち着いたかと思えば、新型インフルエンザさわぎ。これからどうなっていくのか、心配されている方も多いと思います。子どもたちには、マスクなんてなかなか難しいし、外出を控えるのもちょっと・・・ね。早く終息してほしいですね。

これから梅雨の季節が終われば、“夏！！”。今年は、高速道路も1000円だし、おもいきり遠出して、♪ Simmer Dream ♪ を楽しみたいですよね～！！

さて、この半年間にも、お伝えしきれないほどたくさんのイベントが行われました。参加された方も、されなかった方も、ゆっくりお茶でも飲みながら、いっしょに振り返っていきましょうね～！

和歌山県との対話集会



恒例の“和歌山県との対話集会”が、平成20年11月27日に県子ども・障害者相談センターにて行われました。県自閉症協会からは、26名の参加者がさまざまな思いを胸に、県の担当の方々と意見を交換しました。自閉症の子どもを育てていく中で出会ういろいろな困難や思い、そこから出てくる意見や願いなどを伝え、県側と情報を交換する場として、27年間ずっと続けてきた集会です。

今回の対話集会で、当協会から県に提出した意見や質問は、たとえば、早期発見や早期療育に関する体制整備について、特別支援教育に関連した質問や教育システムの充実について、障害者自立支援法に関する質問や不備な点について、療育手帳の判定について、雇用・就労について、警察関係での理解や啓発について・・・など、さまざまな領域に関するものです。それぞれの領域の県の担当者が参加してくださって、和やかな雰囲気での話し合いが行われます。

毎年、自閉症協会では、この対話集会に向けて、行事、勉強会や役員会などで、いろいろな疑問や意見を集め、まとめていきます。皆さんも、何か困っていることやご意見などがありましたら、分会の役員や班長などに、どんどん伝えていってくださいね。

田辺絵画教室でのかまぼこ板合同作品『ぼくらのまち』→



療育キャンプ

(全国心身障害児福祉財団キャンプ補助金事業)

平成 20 年 12 月 13 日 (土)・14 日 (日) コガノイベイホテル・南紀白浜ガーデンハウス・三栖幼稚園

研修 講師：辻幸代氏 (和歌山県発達障害者支援センター センター長) 「自閉症者の自立に向けて」

個別相談：宮本聡氏 (南紀福祉センター付属病院精神科医師)

岡 潔氏 (和歌山大学教育学部附属特別支援学校教諭)

辻幸代氏 (和歌山県発達障害者支援センター センター長)

プール遊び・乗馬

参加者：13 家族 (41 名) スタッフ 7 名 ボランティア 23 名

個別相談風景 右から宮本先生、辻先生、岡先生、古川氏 (市議) →→



“療育キャンプリポート”

by 尾崎

初日は、コガノイベイホテルで、まずオリエンテーションがありました。ボランティアの熊野高校野球部の生徒さんと対面し、サポートブックを読んでもらった後、子どもは温水プールで一緒に遊んでもらいました。



↓ ボランティアの熊野高校野球部の皆さん



その間、保護者は、ポラリスセンター長 辻幸代先生による研修会「自閉症者の自立に向けて」に参加しました。「『自立』とは自分の生き方を自分で決めることができ、その決定に責任を持つこと」だと教えていただき、自己決定する力を育てるために、親は子どもが選べる機会をどのようにして作ってあげられるか、実際にイメージする実践の時間もあり、内容の濃い研修でした。



その後、南紀白浜ガーデンハウスへ移動し、夕食はとれとれ市場で好きなメニューを堪能し、いただき亭でゆっくり温泉に入りました。(ちなみに各部屋にはユニットバスもあります。)

夜には、事前申込制の個別療育相談が行われました。医療・教育・福祉の三名の専門職の先生に相談に乗っていただける貴重な機会となっています。今年度は二日あわせて 7 名の方が相談されました。

また、子どもが寝た後は、自由参加の保護者懇親会もありました。

二日目は、引きつづき個別相談が行われた後、田辺市立三栖幼稚園へ移動し、乗馬体験をしました。

初日に雨が降ったので、できるかどうか心配でしたが、水はけもよくて、無事に行うことができました。

一人ずつ馬（ベッカムくん）に乗せてもらい、園庭を二周しました。ポニーよりも高さがあるので、子どもたちはこわごわチャレンジでしたが、みんなしっかり乗れていました。



その後、釜飯と豚汁、ウイン

ナーや焼き芋などをおいしくいただいて、乗りたい子はまたベッカムくんに乗せてもらっていました。

終わった後に、ベッカムくんにお礼のえさ（りんごなど）をあげました。

最後にみんなで記念撮影して、解散となりました。



宿泊施設がトレーラーハウスなので、家族単位で気兼ねなく泊られます。

母子のみで参加の人は相部屋になりますが、それもまた楽しい経験です♪

夜の自由時間には、子どもたちが一つの部屋に集まってワイ

ワイ楽しそうに遊ぶ姿も見られました。

家族で楽しめて、研修も受けられて、専門家にも

相談に乗ってもらえる、三拍子そろった超お得なキャンプです！！

今年も開催される予定ですので、興味のある方はぜひ参加してみてくださいね（*^_^*）



今年のサマーキャンプは、

日時：平成 21 年 8 月 8 日（土）・9 日（日）

場所：潮岬青少年の家



今年は、親子で楽しむキャンプです。



保護者研修会

“研修会リポート”

by 江川

平成 21 年 2 月 17 日 (火) 和歌山市中央コミュニティセンターにて

和歌山市分会会員 11 名 (メンター 2 名含む)、
紀北分会会員 2 名、一般 7 名 (地域幼稚園 1 名、
小学校 6 名) の計 20 名の参加がありました。

まず、はじめに、就学・前の保護者 (4 名×3)
と成人施設利用者保護者 (6 名) の 4 グループに
分かれて、テーマ「私たちの困っていること」に
ついて、自由討議しました。地域の小学校に通う
子の保護者からは、「通常学級に通っているが、
勉強面や友だち関係でしんどくなっている。
支援学級に移りたいが、手帳も持っていないくて移
れない」「先生が、障害について理解・知識がな
い・薄い」等々、支援学校に通わせている親とは
また違った複雑な問題を抱えているようでした。

成人施設利用者の保護者でも、「施設での食堂
の座る位置が変わり、食事ができなくなってい
ました」等々、大きくなって環境の変化には弱い
のだとつくづく知らされました。話は、父親や祖

父母についてまでおよび、時間を少し延長したも
のの、皆さん、まだまだ話し足りないようでした。

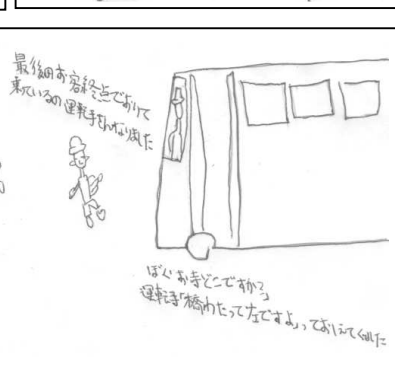
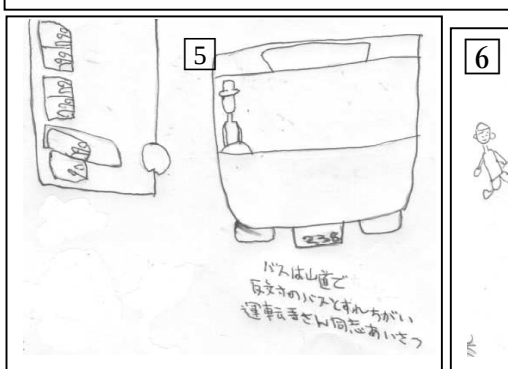
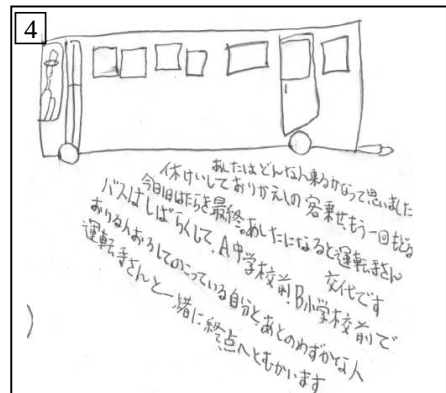
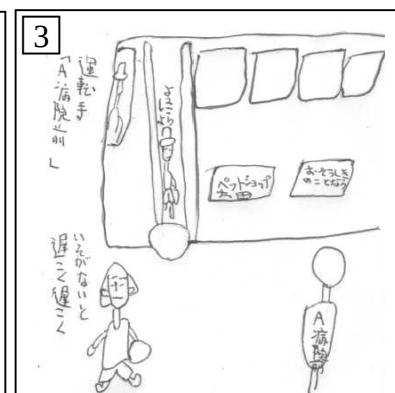
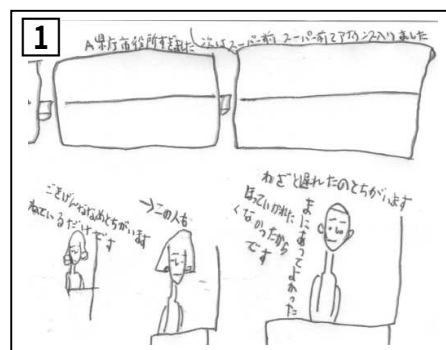
次に、グループで話し合ったことを、代表者が
発表し、それについて、ペアレントメンターや経
験者の方からアドバイスをいただきました。(時
間がなくて、ほんの少し)

皆さん、結構深刻な問題を話しながらも始終笑
顔でした。特に、一般参加の方は、普段こういう
話をする機会が少ないようで、終わった後も、連
絡先の交換や、場所を変えて (ランチ♪) お話し
されていたようです。(ぜひ、入会してほしいで
すね。)

提出してもらったアンケートにも、「今回のよ
うな、いろんな話ができる集まりをしてほしい」
という声が複数ありました。次回は、ぜひお父さ
んにも参加していただきたいですね。

《あるバスのストーリー》 バスマニアさん作 (セリフが見えにくくてゴメンナサイ)

①バスの中、ねてる人(「ごきげんななめと違います。ねてるだけです。」)やかけこみ乗車の人がいます。②次は A 病院前
〜ピンポン♪「次とまります。」③ A 病院前に到着。「いそがないと、遅刻、遅刻」④ バスは運転手さんと終点へと向かい
ます。「あしたはどんな人が乗るのかな?」⑤ 山道で対向車とすれ違い、運転手さん同士があいさつします。⑥ 終点に到着〜。



バスツアー

松茸・近江牛食べ放題ツアー

平成 20 年 11 月 23 日 (日)

初めて参加の新会員西浦さんに感想をお願いしました。

今回、初めてのバスツアーに参加させていただきました。
私と本人(小2)と兄(小6)の3人で行きました。お友だちも参加するのを聞いていたので、「楽しいバスツアーになるかな?」と私がワクワクしていました。

場所は、滋賀県で、「松茸・近江牛食べ放題」でした。
バスで遠出するのも初めてで、「いい経験になるかな」と思いつつも、バスの中で落ち着いていかれるか心配していましたが、本人は、ハイテンションでした。道中の時間が少し長かったので、親は、お友だちや先輩のお母さん方といろいろお話しをして情報交換できましたが、本人は、だんだん飽きてきていましたが、喜んでいました。

松茸は、食べたことがないから食べていませんでしたが、すき焼きを少し食べていました。私と兄は、

たくさん食べて、大満足でした! 今回は、信楽焼のお店に行ったりと、本人は、遊ぶのがよかったので、ウロウロしていましたが、ツアーで参加するというのは、集団行動が苦手なので、いい経験ができました。小学生の参加は少なく、青年の方々が参加していました。私も、小さいときからいろいろな経験をさせて、社会生活での行動を獲得できるように、また、本人にも楽しさをたくさん感じてもらえるようにしていきたいと思いました。バスツアーを企画・幹事をしてくださって、本当にありがとうございました。



お腹いっぱい食べたかな?
← 信楽にて

バームクーヘン作りに
思わず見入ってしまいまし
たね。
近江八幡にて



和歌山市との対話集会

和歌山市分会では、和歌山市との対話集会も行っています。第3回目となる今回は、平成21年2月6日（金）に、和歌山市立中保健センターにて開かれました。和歌山市からは、障害福祉課、地域保健課、保健対策課、総務企画課、学校教育課、保育所管理課から13名、和歌山市議1名に参加していただきました。当分会参加者は18名でした。

自閉症児・者の認知向上について、障害区分判定について、保育所利用料について、医療補助と訓練について、休日・余暇のための施設利用や教

室開催などについて、学校の先生のための自閉症研修について・・・などなど、多くの意見交換がなされました。

まだまだ対話の歴史も浅く、お互いにスムーズに意志を伝えあうところまではいかなかったのですが、これから回を重ねながら、よりよい関係を作って行ければいいですね。



母親クッキング

この恒例の母親クッキングは、小倉さんをはじめとするベテランママさんたちが中心になり、いろいろなお料理を作って食べながら、さまざまなおしゃべりを繰り広げる癒しのサロンです。常連のママさんたちにとっては、今や“生活の中に欠かせないイベント”となり、さらに勢いを増して盛り上がりつつある楽しい会です。まだ参加したことのない方、一度、覗いてみませんか？

写真は、この4月に行われた母親クッキングの様態です。



人権フェスタ

平成20年11月15日・16日（土・日）

ビッグホールにて

当協会のブースでは、自閉症の特徴や対応などを説明するため、ビデオによる紹介、チラシ配布、子どもたちの絵の展示、書籍販売などを行いました。「自閉症ってどんな子ら？」と、関心をもってたずねてこられる方、身近な人について相談をされる方など、いろいろな方々との交流の場となっています。

各班から交代でブース番、ありがとうございました。



岡先生のワンポイントアドバイス⑨

～青年期・成人期の課題について～

和歌山大学附属特別支援学校 岡 潔

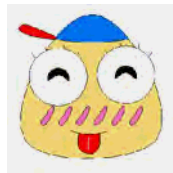
和歌山県自閉症協会の組織の中に専門家部会が設置されて5月でちょうど3年になります。和歌山県は会員の約4分の1が親・家族以外の関係者で構成されている点で全国的にも例がなく、まさに自閉症児者のためにつれもていこらの歩みを続けていると言えるでしょう。この専門家部会では、設置当初から研修を続けているテーマがあります。それが「青年期・成人期の課題」です。18歳以上の自閉症者で出現頻度の高い行動特徴として、「神経質で緊張しやすい」、「ある考えが頭にこびりついて離れない」、「一つのことを気にするといつまでもそれが離れない」、「完全でなければ気がすまない」などがあげられます。専門家部会で、やり直し行動に2時間以上も要してしまうというケースを通して、自閉症者の水面下（根っこの部分）の課題について話し合われたこともあります。

青年期・成人期にクローズアップされる行動は、大人になってから生じるものではなく、変わりにくい本人の特性であったり、長い年月の間に蓄積されてきたことによるものであったりします。現在、特別支援教育が始まり3年になり、自閉症といえば視覚支援といったふうに、少しずつ周囲の理解も広がってきていますが、今成人している人たちの幼児期・学童期はというと、無理解な環境の中で必死に周囲に合わせてがんばり傷ついてきた姿があったのではないのでしょうか。自閉症支援の最も基本は、自閉症者にやさしい環境調整を行うことと、いじめや嫌がらせを受けないように対人関係への介入を行い、気持ちを落ち着かせる方法を早くから身につけさせていくことだと思います。転ばぬ先の杖という言葉がありますが、早期からとりかかることで、青年期・成人期に至るまでの予後が良いということは言うまでもありません。



しかし、親御さんたちの最も不安な時期が、子どもが思春期を迎えた頃でしょう。二次性徴に伴う体の変化を本人がどう受け止めて行くかは深刻な課題です。心は幼くても体は大人、幼児と同じ行動はおかしなふるまいに見られますし、異性へ関心を示しても表現方法がわからないとトラブルの元になります。これらについては具体的な対処法を指導していく必要があります。また、成長の過程で、自我が強くなってきて、自分でやってみるといったポジティブなケースは良いものの、自分へのかかわりを求めるため注目行動が出てくることも多く、それが不適切な行動であると修正が必要になってきます。

青年期・成人期を安定した状態で迎えるための条件として、「仕事」、「生活」、「余暇」のバランスがうまく保たれていることをあげておきます。やりがいや達成感を得られる仕事をもっていること、生活の中に自分が安定する居場所と自分の役割をもっていること、休日や休息の時間に人に迷惑をかけずリフレッシュできる楽しみをもっていることが大切です。これらのことは、大人になってからできるようになるものではありません。家庭や学校の中で、手伝いや係の仕事をこなしていくことが働くことにつながっていきますし、好きな遊びやマニアックなこだわりが趣味や余暇につながっていくこともあります。小さな頃からいろいろな体験をしておくことが必要ですね。



さいごに、青年期・成人期の課題として健康管理の問題をあげておきます。肥満や高血圧などには気をつけたいですね。また、生活が平穩無事であっても充実していないと孤独感や孤立感を感じてしまい、うつ状態になってしまうこともあります。そうならないためにも「仕事」、「生活」、「余暇」のバランスに十分配慮していきたいものですね。

自閉症関係支援セミナー報告

平成 20 年度 NP0 法人和歌山県自閉症協会の事業として、和歌山県の多大なご協力のもと、以下のセミナーを開催しました。

自閉症の支援者育成事業（ヤマト福祉財団助成事業）

- ①公開セミナー（NP0 法人設立記念セミナー） 平成 20 年 10 月 26 日（日） 参加者 80 名
講師：市川宏伸氏（児童精神科医師・東京都立梅ヶ丘病院院長）
- ②早期発見セミナー 平成 21 年 1 月 29 日（木） 専門職向け 参加者 180 名
講師：佐々木忍氏（広汎性発達障害 本人）
演題：大人の発達障害者から伝えること
支援者：辻幸代氏
講師：柳川敏彦氏（和歌山県立医科大学保健看護学部教授）
演題：自閉症スペクトラムの早期発見と対応
講師：佐々木加奈氏（体調不良により欠席 メッセージ代読）
- ③早期療育セミナー 平成 21 年 2 月 9 日（月） 専門職向け 参加者 40 名
講師：山本朗氏（県子ども・障害者相談センター 精神科医師）
演題：発達障害児の発達、こころを支えるということ
ケースカンファレンス インストラクター：辻幸代氏・山本美知子氏・木下聡士氏

いずれも、たくさんの方々のご参加をいただきました。

書籍案内

自閉症の手引き 〈(社)日本自閉症協会〉

自閉症ガイドブック 1～4 & 別冊(乳幼児・学齢・思春期・成人期・海外の自閉症支援)

〈(社)日本自閉症協会〉

光とともに 1～11 〈戸部けいこ 秋田書店〉

会員割引あり！

担当：藤原

事務局から

- ・ 平成21年3月1日 つながり文化祭（県立体育館）
今年も、バザーに参加しました。協力券とバザーの売り上げは、65,920円
ありました。ご協力いただき、ありがとうございました。

- ・ 来年、7月17・18日に第21回社団法人日本自閉症協会全国大会を和歌山県自閉症協会が担当し、和歌山市で開催します。初めての大きなイベント、会員の皆さん、みんなでがんばって必ず成功させましょう～！

（事務局） 伊勢家富士雄

編集後記：編集会議は、いつもみんなでお茶を飲みながら、ゆる～い雰囲気です。現在は4人のスタッフですが、現役の子育てから半分退いたような植野にとっては、若いメンバーたちの新鮮な感覚がとても楽しいし心強いです。次回は、何か新しい企画もやってみたいと思いますので、アイデア寄せてくださいね！

編集スタッフ：尾崎富久子・江川かがり・藤原昌子・植野比呂美（何の順番かわかりましたか～？）

《発行》イコラ編集局（連絡先）植野比呂美